

第11回 共通基盤ワーキンググループ会合 議事概要

1 日 時 平成29年11月16日（木）13:00～15:55

2 場 所 総務省第二庁舎 6階 特別会議室

3 出席者

【委 員】

北村 行伸（座長）、永瀬 伸子、野呂 順一、川崎 茂、西郷 浩

【審議協力者】

内閣府、総務省統計局、財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、日本銀行

【総 務 省】

政策統括官（統計基準担当）：菱山参事官

【事務局（総務省）】

横山大臣官房審議官

統計委員会担当室：山澤室長、永島次長、上田次長、佐々木室長補佐

政策統括官（統計基準担当）：澤村統計審査官、宮内企画官、辻元統計専門職

4 議 事

（1）統計棚卸し等

（2）公的統計の整備に関する基本的な計画の変更に係る答申（案）

（3）その他

5 議事概要

（1）統計棚卸し等

事務局から資料1-1に基づき課題等の説明があり、統計改革推進会議最終取りまとめの提言に対する検討状況について、政策統括官室から資料1-2及び資料1-3に基づき報告があり、事務局から次期基本計画における取扱い及び基本的な考え方の説明があり、議論し、基本的な考え方については概ね了承された。

主な質疑は、以下のとおり。

○官民コストの引き下げを、時間で測ると、大雑把な指標になるのではないか。時間コストを合計する上で、給与単価の違いは考慮に入れるのか。また、調査内容を充実させて、より利用価値の高い統計を作成していく場合、コストは削減できずベネフィットは増えることになるので、この資料1-3はミスリードにならないのかと心配する。

→利用できる指標は限られているので、利用できる範囲内で最大限活用することを考えている。給与のウェイト付けは、計測の作業コストの問題もあり、困難。報告者やユーザーのコスト削減を推進するために、調査実施者・作成者のコストが増加す

- るようなことはありうる。その場合、作成者のコスト削減が2割に届かないかわりに、報告者やユーザーの部分で多めにコスト削減してもらえればよいと考えている。
- 「統計改革推進会議最終取りまとめに基づく追加的な改革の取組に要するコストについては対象外にする」とあるが、一時的なものだけでなく、改革によって恒常的に増える分も対象外なのか。
- そのとおり。
- 対象統計が、「計測可能性の観点から、e-Statに掲載の統計」となっているが、e-Statに掲載している統計だけでいいのか。
- 報告者に負担を課しているような調査統計は、e-Statでカバーしているので、e-Statを対象にすればコストの大宗を把握できる。
- 統計を廃止すればコスト削減に大いに寄与すると思うが、e-Statに掲載している統計は廃止することが難しいので、対象をe-Statに限定せず緩やかにした方がよいのではないか。
- ユーザーのコストについては、使用頻度の濃淡でウェイト付けた方がいいのではないか。
- 使用頻度の観点では、統計ごとのダウンロード数、アクセス数でウェイトを付けるつもりである。
- 報告者コストを考える上では、ベネフィットに対するコストを考慮すべきではないのか。単に時間だけではなく、コストとベネフィットを相対的にみる必要がある。また二次利用に関して言えば、オンサイト施設に行って統計調査を利用すると、確かに申請時間は短縮されるが、逆にオンサイト施設までの交通時間が必要になるので利用者の時間負担が増える側面もあり、この点を勘案すべきである。
- ベネフィットの観点があることは承知しているが、3年2割のコスト削減の取組なので、基本的には、コストの削減で評価することを考えている。その上で、統計棚卸し等別の取組で、統計の品質等は確保していくことを考えたい。
- 統計調査の規模の大きさによって、全体への影響が異なるので、結果を見る上で留意が必要である。
- 統計が利用し易くなって利用者が増えれば、利用者側のコストは低下したという見方はしないのか。
- いい統計を作成し、利用件数が増えれば、コスト削減が大きくなるような計算になっている。
- 一次利用に係るユーザーコストに関して、検索の開始時間は、どのデータにするのか考えるときからなのか、データを特定したときからなのか、また、加工時間の終了時間は、ダウンロードしたときなのか、さらに加工までしたときのかなど、定義の仕方で結果が変わるので、分かりやすく説明してほしい。
- どういう考え方で指標を設定したかについては、分かりやすい説明をしたい。
- 事前審査の簡素化・迅速化に関して、一般統計調査を対象にするとあるが、事後確認の中で見えてくる一般統計の課題は、どのように統計委員会にフィードバックされるのか。
- 統計棚卸しへの情報提供として統計委員会にフィードバックされる。

○資料 1 - 1 の 4 ページの最初の○では、統計利用の促進状況、ベネフィットにも考慮するような表現振りが必要ではないのか。

→文章の表現振りを工夫したい。

(2) 公的統計の整備に関する基本的な計画の変更に係る答申（案）

事務局から資料 2 - 1 に基づき基本計画の答申案の説明があり、議論し、概ね了承された。

主な質疑は、以下のとおり。

○結果表の表章区分については、一律に統一するのではなく、統計調査の特性や利用者の利便性にも配慮してほしい。

→その点は、十分に留意してまいりたい。

○統計リテラシーの向上は、大学に関する内容が強調されているが、初等中等教育も重要なので、文章上に盛り込んでほしい。

→文章の表現振りを工夫したい。

○災害発生時の備えに関して、災害規模の調査なども必要ではないかと思う。

○調査員の確保に関して、61歳以上が6割になり高齢化は大きな問題とあるが、骨太 2017でも65歳以上の就労を薦めているので、表現振りを工夫すべき。

→文章の表現振りを工夫したい。

(3) その他

本WGは、今回の会合をもって閉会とし、審議結果については次回の基本計画部会で北村座長から報告されることとされた。

以上

<文責 総務省統計委員会担当室 速報のため事後修正の可能性あり>